

普及活動情勢報告（平成 24 年 2 月分）

安芸農業振興センター 農業改良普及課

情勢報告

赤野小学校が花き出前授業でフラワーアレンジ



JA 女性部会を講師にフラワー
アレンジに挑戦

2 月 2 日に安芸市赤野小学校 5、6 年生 18 名を対象に花きの出前授業を実施した。

地域の花き学習は振興センターが担ったが、フラワーアレンジは JA 土佐あき花卉部女性部会が 6 名の講師を派遣して孫のような生徒を相手に奮闘した。花材は全て市内産の花を使い、前日から用意した牛乳パックを花器にフラワーアレンジに挑戦した。最初は戸惑っていた生徒たちも講師のリードとともに楽しそうに花を挿していった。

振興センターでは、近年、小学校から出前授業の要請が増えており、講師をできるだけ地元の生産者で授業をするよう仕向け、農業は楽しい、夢がある等積極的にアピールしている。

JA 土佐あき花卉部球根部会がたい肥利用講演会を開催



(財)畜産環境整備機構を講師にたい肥
利用講演会

2 月 7 日に JA 土佐あき花卉部会を対象に土作り勉強会として、たい肥利用講演会を開催した。主催は同球根部会でユリ生産者を中心に 12 名の参加があった。

講演では講師がわかりやすく堆肥の特性等を説明したあと、「どこで良質たい肥が買えるか」「ユリ栽培での堆肥利用量は」とか多くの質疑があり、会はかなり盛り上がった。

振興センターでは、部会活動を活発にするための支援として外部講師等の受け入れを促し、勉強会の回数を多くしていく。

室戸海洋深層水ナス、知って！



室戸海洋深層水ナスブランド化協議会では、安全・安心なナスづくりのために、「土着天敵の利用、たい肥による土づくり、栽培履歴書の回収と点検」を重点的に取り組んでいる。そこで、取り組みの PR と活動の見直しを行うため、振興センターは同協議会と計画し、消費者や学生との交流会を実施した。

2 月 8 日には 3 人のこうち農業環境・安全・安心ウォッチャーを招き、試食や現地視察、取り組みや PR 方法についての意見交換を行った。「素材の味で勝負できる。」「キャラクターや CM をもっと活用したら。」という意見に、出席した 25 名の農家も真剣に耳を傾けていた。

13 日には県立高知農業高校の 1 年生 38 名が農家見学に訪れ、「タバコカスミカメかわいい。」「どうしてナスを作ろうと思ったんですか。」などの質疑で盛り上がった。

生産者以外の交流の場が増えることで、安心安全なナス作りの取り組みを見直す機会づくりになった。

振興センターでは、消費者を意識した産地づくりに向け、技術面やPR方法を中心に支援する。

中芸地区「お国自慢」開催！！



自慢の料理の数々を一堂に

中芸地区農漁村女性グループ研究会が、2月9日、各グループの地域の自慢料理を持ち寄って披露する「お国自慢」の会を開催した。ユズ、ミョウガ、ナス等地域の作物を使い、各グループが料理の紹介をし、「去年より盛りつけが繊細になった」「ナスに品種があるとは知らなかった」「この料理を食べるだけで終わらず、活用していきたい」等、料理自慢に話の花が咲いた。

今後は、話題の上ったように展示試食のみに終わらず、パンフレットにして広く食農教育等に役立てるよう支援する。

田野町大野倶楽部女性部「美味しいものづくり」を目指して



「まほろば畑」で料理解説を熱心に聞く

田野町大野倶楽部女性部は、地域にあるものを活用して消費者交流で料理提供等を行っています。今回は、女性部12名が2月14日南国市「まほろば畑」へ、組織体制、今後の提供料理メニュー、加工品づくりについて学習するため、視察研修を行った。参加者からは「できることから始めよう」「自分たちの料理を持ち寄って、皆に食べてもらおう」等意欲的な意見がでた。今後は、同女性部独自の加工品・料理メニューの開発等について体制づくりや具体的な計画実施を支援する。